

## ヤブタビラコ (藪田平子)

名前の意味：<sup>いみ</sup>藪に生える<sup>やぶ</sup>タビラコの意味。タビラコは、水田に生える春の七草の一種「ほとけのざ」、現在の和名でコオニタビラコのことを示し、田んぼで葉を平たく広げているということ表現している

分類：双子葉類、キク科、ヤブタビラコ属

(キク科の<sup>さいばいしょくぶつ</sup>栽培植物：ヒマワリ、フキ、レタス、ゴボウ)

好きな場所：湿った道ばた、林の縁

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた(<sup>じせい</sup>自生)

特徴：地面を丸く<sup>おお</sup>覆うぎざぎざの葉、<sup>なな</sup>斜めに立つ<sup>くき</sup>茎、小さな黄色い花、タンポポのような実

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数：<sup>ごうべん</sup>合弁、<sup>れつ</sup>5裂(たくさんの花が集まってひとつの花に見える。1つの花の形は小さくてよく見えない)

花の時期：4—5月

見分け方：オニタビラコとは、花が1つずつ付くこと、<sup>くき</sup>茎が根元から<sup>なな</sup>斜めに何本も出ることによって区別できる。

見つけやすさ ★★★★★

見分けやすさ ★★★

<sup>そうごうなんいど</sup>総合難易度 ★★★★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)